

4年 国語科学習指導案

5月21日(月) 6限 4の1教室
授業者 高田 徹

1 単元名 もっと噛もう！ ～「かむ」ことの力を通して～

2 本単元における知識創造

噛むことによって起こる様々ないいことをつかむため 段落ごとの要点をとらえ いくつかの段落が一まとまりとなることに気づき 文章全体におけるそのまとまりの意味と役割を理解することで 文章構造をとらえる視点を獲得する

本教材文は、冒頭で「よく噛みなさい」と言われた経験に触れ、噛むことによって起こる様々な事実をいいこととして論述している。したがって、子どもが「よく噛むといいことがある」と気づくのはたやすいが、いいこと具体例をそのようなことが起こるのはどうしてかという根拠付けて理解するまでには至らないだろう。

そこで、本単元では「いいこと具体例は何か」そして「そのようなことが起こるのはどうしてか」という2点を扱う。

子どもの考えは、まず各段落で述べられている「いいこと具体例」に向かうだろう。この考え、いかえると個が挙げるいいこと具体例には違いがある。ゆえに、考えを伝え合うことによって、子どもの思考はおのずと「そのようなことが起こるのはどうしてかという根拠」に至る。つまり、噛むという行為によってこのような事実が起こるといように、行為と事実の関係について思考を始めるのである。この関係は筆者が各段落で述べている要点である。したがって、このような子どもの思考は、各段落の中心となる語や文に着目し、要点をとらえる思考をすることでもある。

また、たとえ直感的であっても要点をとらえ始めたならば、「いいこと具体例」が述べられていない段落、すなわち、問いを投げかけている段落・話題の転換を図っている段落などの存在にも気づくだろう。これによって、文章全体を俯瞰し、いくつかの段落をまとまりとみるようになるはずである。

一つの段落に着目したり段落をまとまりとみたり、この二つを常に意識するによって全体からみた部分の意味や役割の理解がすすみ、文章構造をとらえる視点が獲得できると考えている。

3 知識創造の力を育むために

(1) 本単元における「かかわり」の活性化

教材文に述べられている「よく噛むといいこと」とは何だと読むのかについて、子ども個々は異なった考えを持つだろう。

考えが異なる者どうしが合意に至るには、それぞれの根拠を伝え合う必要がある。しかしその根拠が独善的では合意に至らない。根拠には妥当性のある論理が必要である。ここでいう妥当性のある論理とは「噛むとこういう事実が起こり、その事実はこのような事実につながる」という、子どもの生活経験においても納得できる、叙述に表現された事実相互のつながりである。

このような事実相互のつながりを明確にしようとする状態が本単元の「かかわり」の活性化である。

伝え合う活動を通して、自分の根拠を論理的に再構築したり相手の根拠を論理的に批評したりすることは、自らの言語生活をより豊かにする確かな国語力を育むと考えている。

(2) 本単元における「かかわり」を活性化する手立て

本単元では音声言語を使った「かかわり」が中心となる。音声言語はその特性から、保持や再現が困難である。そのため、聞き取ることへの配慮を中心に「かかわり」を活性化させる手立てを考えている。

●異なった結論の明確化

同じ段落に目をつけても、そこに述べられている「いいこと具体例」が何であるかという考えは、子どもによって異なるだろう。そこで「いいことは何？」という問い返しで結論を明確にしたい。

自分と異なった結論に達した他者がいることを知れば、その他者を納得させるだけの根拠を聞いてほしいと思うだろう。逆に相手は、異なった考えをもっているゆえに、その根拠を聞かせてほしいと思うはずである。

すなわち、考えの結論が異なっていることの認識によって、その根拠である事実相互のつながりを明確にしようとする必然性が生まれるととらえている。

●結論・着目した叙述・根拠を明確にする

結論と根拠が混沌としたままの発言では、伝え合いは漠然としたものに陥ってしまう。そこで、「言いたいことは何？」「どこを読んで、そう考えたの？」「〇〇と書いてあったら、なぜそう考えるの？」などと助言し、絶えず自分の考えの結論・着目した叙述・根拠の区別を意識した伝え合いとしたい。

この手立てで発言が聞き取りやすくなれば、納得できない部分がある聞き手から問い返しが始まり、「かかわり」を活性化することができるととらえている。

●叙述相互の関係が明確になる板書をする

噛むという原因によっていいことという結果が起きるという関係を、子どもは言語だけで説明しようとするだろう。そのような時には、教師側が積極的に図示したい。この手立てによって、噛むという行為とそれによっておきる事実は、原因と結果の関係にあることが明確になる。また聞き手にとっても言語だけに頼るよりも視覚に訴えられることで理解が容易になり、「かかわり」を活性化することができると考えている。

4 学習計画（総時間数 10 時間）

主な活動と内容	「かかわり」を活性化する手立てと意図
<p>1. 問題意識をもつ <おやつについて話し合おう> ・資料は噛み応えのあるものばかり勧めている ・よく噛むと いいこと があるらしい ・いいことって何だろう</p>	<p>想起 噛みごたえのある食品をすすめる補助テキストを提示する。 知識の不足を自覚することが読みの動機となる。</p>
<p>2. 文章から知りたい情報を得る <いいこと について自分なりにまとめよう> ・よく噛むと いいことを見つけたぞ ・友だちの意見も聞いてみたいよ <いいことはあったかな> ・いいことが書かれているまとまりが二つあったよ ・それぞれに書いてあるいいこととは何かな？ <いいこと とは何だろう？> ・いろんな部分にいいことが起きるんだ ・噛むことは体全体に関わっている ・最初に問題をなげかけ、説明したあとでまとめるというまとまりになっているよ</p>	<p>想起 観点をしぼったワークシートを与える。各段落の中心文やキーワードが意識できる。 表出 着目した段落を明確にする。 文章のあらましが明確になることで、段落がひとまとまりとなることに気づく 結合 子どもの挙げる根拠を構造的に板書する。 段落相互の関係が視覚的に明確になり、文章全体におけるまとまりの意味と役割が理解される。</p>
<p>3. 得ることができた情報を伝える ・噛むって大切なんだな ・こんなたいせつなことをみんなにも知らせたいね <噛むことのキャッチコピーを作ろう！> ・自分が一番伝えたいいいことを選ぼう？ ・虫歯予防デーに使いそうだぞ ・学校のみんなにも伝えよう</p>	<p>想起 どの段落のキャッチコピーを作ったのか、なぜその段落を選んだのかを明確にする。 受け手を意識し、相手にとって価値ある情報を選択する思考が促される。</p>

5 本時の学習 (3/10 時間)

- (1) めざす知識創造 「いいこと」が述べられている段落について自分との考えの違いを意識し 文章が四つのまとまり(問いの投げかけ・説明1・説明2・まとめ)になっていることに気づき 文章のあらましをとらえる

(2) 展開

主な活動と内容	時	「かかわり」を活性化する手立てと意図																																													
<p>1. 課題に対する自分の考えを明確にする</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">よく噛むといいことがあったかな?</p> <p>2. 各自が見つけたいいことを伝え合う</p> <ul style="list-style-type: none"> よく噛むといいことを見つけたよ 私も見つけたよ <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">みんなよくかむといいことをみつけたぞ!</p> <ul style="list-style-type: none"> でも目をつけた段落はそれぞれちがうみたいだ <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">どの段落に書いてあった?</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの考えが少しずつ違うね… <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>⑨</td><td>⑧</td><td>⑦</td><td>⑥</td><td>⑤</td><td>④</td><td>③</td><td>②</td><td>①</td> </tr> <tr> <td>?</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>?</td><td>×</td> </tr> <tr> <td></td><td>(書いてある)</td><td>(書いてある)</td><td>(書いてある)</td><td></td><td>(書いてある)</td><td>(書いてある)</td><td>(ありそう)</td><td>(書いてない)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ①は問題を出している段落だからいいことは書いてない ⑤段落で“他にもあります”と書いてあるから、その前と後には必ず書いてあるはずだ そうするとこんな文章になるね… <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>⑨</td><td>⑧</td><td>⑦</td><td>⑥</td><td>⑤</td><td>④</td><td>③</td><td>②</td><td>①</td> </tr> <tr> <td>まとめ?</td><td colspan="2">いいこと その説明 2</td><td>他にもあるよ</td><td colspan="2">いいこと その説明 1</td><td colspan="2">問題を出す</td><td></td> </tr> </table> <p>3 本時をふり返り次時へのめあてをもつ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">噛めば噛むほどいいことの説明は二つにわかれているぞ それぞれのまとまりに書いてあるいいことは何かはっきりさせよう!</p>	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	?	○	○	○	×	○	○	?	×		(書いてある)	(書いてある)	(書いてある)		(書いてある)	(書いてある)	(ありそう)	(書いてない)	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	まとめ?	いいこと その説明 2		他にもあるよ	いいこと その説明 1		問題を出す			<p>5</p> <p>35</p> <p>5</p>	<p>「かかわり」を活性化する手立てと意図</p> <p>表出</p> <p>「いいことが書いてあったか」「書いてある段落はどこか?」という二つの観点で子どもの発言を整理する。この段階では、あえて「いいことは何であったか」について深く扱わない。</p> <p>いいことが述べられていると判断した段落が明確になれば、逆にいいことが述べられていないと判断した段落も明確になる。</p> <p>いいことが書いてあるかどうかという判断を迫られると無意識のうちに段落の大事なことに目が向く、いいかえれば要点が意識される。</p> <p>共有</p> <p>①段落⑤段落に目をつけなかった根拠を問う。</p> <p>問題提起を提起した別の理由を述べようとしていたりする段落であることに気づき、複数の段落がまとまっているという見方につながるだろう。</p> <p>共有</p> <p>②～④段落および⑥～⑧段落に書かれているいいことの数を問う</p> <p>まず・次になどの順序を表す叙述に目が向くことで、段落相互の関係への意識が生まれる。</p>
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①																																							
?	○	○	○	×	○	○	?	×																																							
	(書いてある)	(書いてある)	(書いてある)		(書いてある)	(書いてある)	(ありそう)	(書いてない)																																							
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①																																							
まとめ?	いいこと その説明 2		他にもあるよ	いいこと その説明 1		問題を出す																																									
<p>噛めば噛むほどいいことの説明は二つにわかれているぞ それぞれのまとまりに書いてあるいいことは何かはっきりさせよう!</p>	<p>5</p>	<p>結合</p> <p>クラスが納得した事柄とそれが序叙されている段落を板書で明確にする。</p> <p>文章構成をつかみ、読まなければならない部分への意識が強まる。</p>																																													